

2020年6月21日(日)／説教者：國分美生

説教：「新しい王、新しい時代—6.23 沖縄戦の悲劇を覚えて」

聖書：イザヤ書11:1～10

イザヤ書冒頭は南ユダ王国の墮落し、悪を行っている人々に対する裁きの言葉から始まります。大国の圧力によって国の存続が脅かされている中、なぜ第一にユダ王国とエルサレムに対する裁きの預言を行ったのか…そのわけは国による偶像礼拝と富の偏りにありました。相手の権力に依存し、自分たちの神を捨て去り、ある人たちを犠牲にすることで国の繁栄が成り立っていました。イザヤは主に立ち返るように何度も語り掛けます。それは人々に対する神の深い思いそのものでした。イザヤの預言は神に背くことによってこの社会がいかにいびつで、しわ寄せと裂け目ばかりであるかということへの批判であったでしょう。しかし裁きでは終わらず、同時に救いの預言でした。

「エッサイの株から一つの芽が萌いで、その根から一つの若枝が育ち。その上に主の霊がとどまる…」。新しい王が、新しい株から立ち上げられ、新しい時代になっていく、と。その人は神を畏れ敬い、弱い人のために正当な裁きを行い、貧しい人を公平に弁護し、正義をその腰の帯として、真実をその身に帯びる、と。

沖縄戦において日本軍により、単に県民の命が奪われただけでなく、人々の自由と尊厳と権利とが奪われました。長きにわたり沖縄が受けてきた傷や差別。それは世代を超えて若者たち、子どもたちに引き継がれています。

その中で6月23日は県民にとって単に「死んだ人の魂の慰め」の日ではないと気づかされます。平和の波が世界の隅々に向かって広がっていくイメージで制作された平和の礎。のちの世のために沖縄から平和のメッセージを発信していくため、自らのつらい戦争体験を語ってくださる方々。ゲート前で見た「沖縄の慰霊とは、基地をなくすこと」と書かれた横断幕等々…。主が沖縄を愛し、力づけ、ここから平和な新しい世界のさざ波を広げようとして働いておられることを感じます。

平和への思いは共感と連帯の思いも呼び起こします。11章の6節以下は平和のイメージを具体的に表します。救い主のご支配のもとで人々が共に生きるということ…それは不平等や不正義が行われていることや、差別される命があることを許さず、過去とは違う新しい平和の王が現れ新しい世界が広がっていくことを信じること。新約の時代、イエス様の福音を伝えていった最初期のキリスト者たちもこの平和の主のイメージを受け継いでいきました。そしてそれはいま私たちにも引き継がれ、キリストの平和の働きのうちに私たち教会も招かれています。(國分美生)